

長野県社会福祉士会 NEWS

第199号
2023/11/1



発行▶公益社団法人長野県社会福祉士会
会長 吉澤利政
事務局▶〒380-0836長野市南県町685-2
長野県食糧会館6F
編集▶広報編集委員会
発行部数▶2,400部

TEL▶026-266-0294 FAX▶026-266-0339 E-mail▶info@nacsww.jp HP▶https://nacsww.jp/

習うから学ぶへ	1
WHAT'S長野県社会福祉士会 生涯研修センター運営委員会	2~3
特集 社会福祉士実習指導者に聞く 「社会福祉士実習の現状と課題について」	4~5

contents

長野県社会福祉士会 県下4地区の活動状況について	6~7
リレーエッセイ	8
信州ぐるっと!!	8
編集後記	8

巻頭言

習うから学ぶへ

相馬大祐 (外部理事・公立学校法人長野大学准教授)

「習うから学ぶへ」これは相談支援専門員の初任者研修のテキストに出てくるフレーズです。「習う」と「学ぶ」、この2つの言葉の違いはどこにあるのでしょうか？例えば、経験から学ぶと言うことができますが、経験から習うとは言いません。「習う」は人に教わることが前提とされているのに対し、「学ぶ」は人に教わることに限定されず、より主体的な意味合いを持つ言葉と言えます。皆さんはいかがでしょう。習うことに慣れてすぎていませんか？

本号は長野県社会福祉士会が実施している人材育成に関するさまざまな取り組みが紹介されています。社会福祉士などの専門職が学び続ける必要性については、社会が変革する中で、専門職も変化し続ける必要があるからと私は考えています。また、ある程度、実践経験を積み重ね、熟達化した専門職は習う機会が激減します。当たり前ですが、熟達化した専門職に対し、教えてくれる人は少なくなります。そのため、熟達化した専門職が変化するためには、学ぶことが重要であり、主体的に学ぶ機会を自ら求めていく必要があります。

それでは、熟達者が学ぶ方法はどのようなものがあるのでしょうか？そのヒントになるのが、「教学相長（きょうがくあいちょうず）」という言葉であると考えています。これは教えることと学ぶことは、お互いを助け合うという意味です。教えることによって、その物事を深く知る機会を得たり、その物事を知らない自分に気付いたりすることができるということを意味しています。そのため、さまざまな研修の講師、ファシリテーター等や社会福祉士の指導者の役割を担うことこそ、熟達者の1つの学びの方法と言えます。

一方、私たちは小学校等の経験から、「習う」こと

に慣れており、「習う」ことを前提に考え、教える側というのは物事をよく熟知している指導者とイメージしてしまうことが多いです。そのため、私なんて講師は難しい、指導者はおこがましいと話す方が多いです。しかし「学ぶ」を前提に考えると、教える者も教わる者も双方が学習者であり、教える者の方が学習効果は高いのです。おこがましいことなんてありません、むしろ、そんな謙虚で誠実な人こそ、講師として適任ともいえるのです。

この他に効果的な学びの方法として、経験学習モデルという考え方が参考になります。具体的に経験し、それを振り返り（省察的な観察）、その内容を言語化し（抽象的な概念化）、さらに実践に応用する（能動的な実験）といったサイクルを繰り返すことにより、学習の効果が高まるといわれています。この考え方を参考にすると、実践の場こそが最大の学びの場であると言えます。そのため、職場内訓練（OJT）が重要になります。

こういった考え方に基づき、実践のより近いところで学びの場を構築することが重要になると考えます。職場の中でOJTを受けることができないのであれば、法人や組織を越えた仕組みを地域で構築するといった考え方であり、すでに長野県の一部の地域でも構築されています。

人口減少社会の中で、社会福祉業界だけでなくさまざまな業界において人手不足が叫ばれる状況だからこそ、人を大切に育てる取り組みを地域の中で考え、実践者の孤立化を防ぐことが求められます。そのためには、法人や組織を越えた仕組みと、そういった取り組みについて、分野横断的に情報を共有していくことが今後、重要になると考えます。

長野県社会福祉士会 生涯研修センター運営委員会 ～委員会の概要と取り組みについて紹介!!～

生涯研修センター運営委員会とは、会員のスキル向上や社会福祉士に必要となる共通基盤の確立のための研修、認定社会福祉士制度に関する基礎研修や専門研修、社会福祉士実習指導者講習会、社会福祉士全国统一模試などの企画、運営を担うために設置された委員会です。長野県の北信、中信、東信、南信の各地区から選出された会員14人が、各種研修会等の企画・運営を担っています。

生涯研修制度って？

会員が倫理綱領に基づいた実践が行えるよう、専門性と倫理を常に向上させるため生涯にわたって行う研修の総称です。生涯研修センターは日本社会福祉士会の生涯研修センターと連携しながら、その運営を担っています。

生涯研修センターって？

日本社会福祉士会の生涯研修センターと連携しながら生涯研修制度の運営を担っています。本会では基礎研修・専門研修・実習指導者養成などに取り組んでいます。

認定社会福祉士って？

社会福祉士が習得した実践力を担保する制度で、認定社会福祉士認証・認定機構が運営しています。

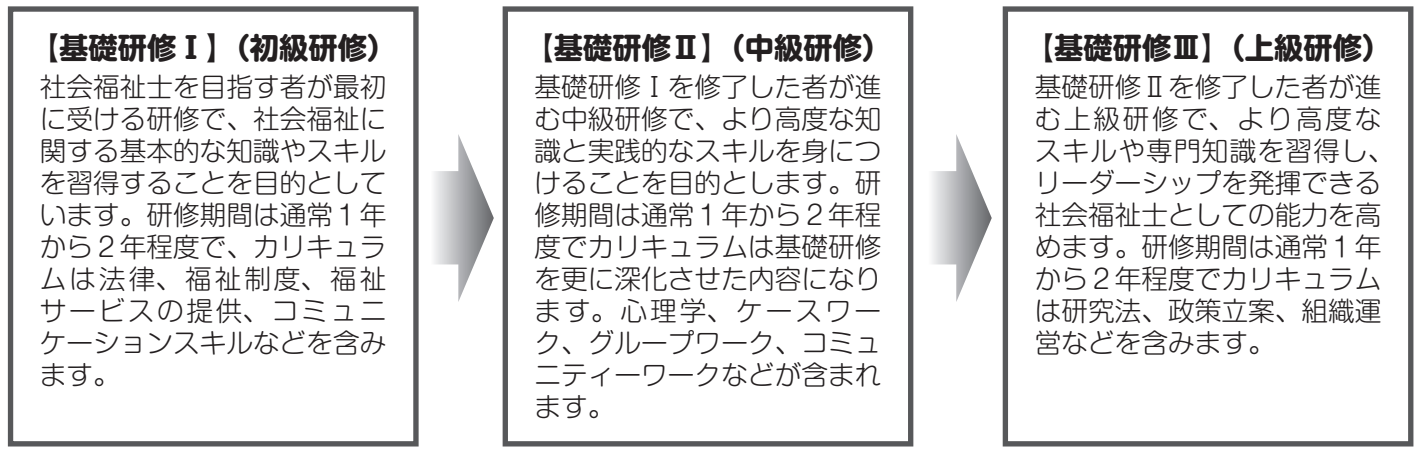
なぜ研修が必要なのでしょう？

社会福祉士の倫理綱領（2020年6月採択）に「社会福祉士は最良の実践を行うために、必要な資格を所持し、専門性の向上に努める」と書かれており、社会福祉士法第47条の2において環境の変化による業務の内容の変化に適応するため知識および技術の向上に努めると定められています。コロナ禍という環境の変化に対応するため日々研鑽に務めている多くの会員の姿を目のあたりにしています。

生涯研修制度は会員が倫理綱領に基づいた相談援助活動が行えるよう専門性と倫理を常に向上させるために生涯にわたって行う研修の総称であり、当センターは、日本社会福祉士会の生涯研修センターと連携しながらその運営を担っています。

当センターは会員の仲間と共に学びたい、専門性を向上させたい、地域の実践力を向上させたいという思いに応えるため、基礎研修・専門研修・実習指導者養成などに取り組んでいます。

基礎研修ⅠからⅢの概要



e-ラーニングについて

たくさんの研修の案内がくるけど、なかなか日程が合わないわ。



制度もどんどん新しくなるし、もっと気軽に自己研鑽できるといいのに。



そんなあなたにはe-ラーニングをおすすめします！

日本社会福祉士会では、社会福祉に関する講座をオンラインで配信しています。講座は時間や場所を問わずパソコンやスマートフォンから視聴することができます。さまざまなテーマの講座があり、講師は各分野のスペシャリストが担当しています。ぜひ、ご活用ください。

2023年度 社会福祉士倫理綱領・行動規範研修

皆さんは、社会福祉士の倫理綱領や行動規範が改正されていることをご存じでしょうか。社会福祉士の倫理綱領は2020年に、行動規範は2021年に世界情勢や時代背景を考慮して改正されています。こうした状況を鑑み、日本社会福祉士会では改正倫理綱領の浸透・理解を目的に、講師養成研修を2回開催しています。今年度の参加人数は75人でした。この研修には、倫理綱領について、深く理解されている方が多く参加していたという印象でした。グループワークでは、“倫理綱領はもちろん大切、しかし、それは知識として知っているだけでなく、“実務に生かすこと”、“日々の業務で活用できることが大切”である”などの意見が出ていました。9月30日に長野県社会福祉士会でも倫理綱領・行動規範研修を開催しました。



「社会福祉士は、地域や職場でどのような役割、存在であらねばいけないのか。また、職場や地域の中で課題解決に取り組んでゆく、実践力が問われている。改めて自分たちの責任を感じている。そうした行動の基本となるのが倫理綱領である。」とは当日研修に参加されていた会長の言葉です。講義では単にオンライン講義の振り返りをするだけでなく、倫理綱領の変遷を振り返り、現在の位置づけを理解し、社会における自らの立ち位置（ソーシャル実践とは何か。）を考える機会となりました。グループワークでは、新倫理綱領における“クライアント”の定義が「利用者」から「変革や開発、結束の必要な社会に含まれるすべての人々」に変更されたことを受け、社会福祉士の役割もまた、変わる必要があるとの意見が出ていました。



本研修は、基礎研修修了者のフォローアップ研修も兼ねており、特にオンライン研修のみで終了された会員の方は直接会って話す機会もありました。研修は、事前課題もあり、簡単に参加できるものではなかったかもしれません。しかし集合研修は学びが多く、また、仲間との意見交換は励みにもなります。倫理綱領の理解や解釈が、仕事にも大きく影響します。まずは倫理綱領をご一読することをお勧めします。そして、いつでも読める場所に置いておきましょう。

日本社会福祉士会の生涯研修センター企画運営委員になって

長戸 桜子（長野県社会福祉士会副会長・生涯研修センター長）

私が研修委員になったのは上司からの誘いがきっかけで研修の企画運営に携わるようになり、一緒に関わる人とのつながりが自分を豊かにしてくれるので、ずっと続けてきました。すでに長野県社会福祉士会の生涯研修センター長を務めて5年になります。今年度からは日本社会福祉士会の生涯研修センター企画・運営委員になっています。

生涯研修センターは、私たち社会福祉士が日頃から研鑽を積むための生涯研修制度を運用するために設置され、各都道府県社会福祉士会には必ずあります。毎年2回、全国生涯研修委員会議が開催され、全国から各都道府県の基礎研修を始めとしたさまざまな研修を企画運営している委員が、情報共有し連携するために集まります。私たちは、各都道府県の研修に係る課題や今後の研修運営に役立つノウハウなどやe-ラーニングなどの新しいコンテンツ、基礎研修並びに実習指導者講習会や認定社会福祉士制度をより身近なものにする方法などを毎月話し合っています。最近Zoomによるオンラインミーティングを活用するので、打ち合わせは自宅になりますが、時々参集する時は東京まで出向きます。長野市在住の私は十分日帰りできますが、東北や九州から来る委員は、飛行機を使い宿泊し出席して役割を果たしています。時間を費やす大変さはありませんが、全国で活躍する語り合える同志に出会えることは本当に楽しいことです。ぜひ、会員の皆さんも長野県社会福祉士会に入会したからには積極的に会活動に参加し、自分自身で委員をやって、会を動かす、多くの仲間と語る…そんな時間を持つてみてはいかがでしょうか。

社会福祉士実習指導者に聞く 「社会福祉士実習の現状と課題について」

北信地区

氏名：宇野 耕太郎

所属：社会福祉法人長野市社会事業協会 ほっとらいふ相談室

<社会福祉士養成実習の受け入れ状況>

当事業所では、令和4年度に5人（4大学）、令和5年度に5人（4大学）の実習生を受け入れております（9月現在）。当法人では、児童や障がい者の支援をはじめ、高齢者施設や救護施設も運営しており、その強みを生かして各事業所の実習担当者と連携することで、実習期間中にそれぞれの分野との関わりを持てるようにしています。

<実習指導者として心がけていること>

相談支援専門員として多くの方と関わる機会がありますが、どの方に対しても、個別化した関わりをもっていることを常に伝えるようにしています。障がい種別、疾患等も情報としてとても大切ですが、その方の歩んできたこれまでの人生や現在の状況について、ご本人をしっかりと見て把握することに努めています。

<養成校の新カリキュラムへの対応と課題について>

課題として、実習生によっては希望する実習先ではない場合もあり、事前学習や実習中のモチベーションの維持に差異が生じる可能性があるかと思えます。また、実習生の意欲や学習の進捗状況によっては、余儀なく実習内容の変更をせざるを得ないこともあります。

新カリキュラムとなり、2か所以上の事業所での実習が必要となったことにより、事業所同士の連携を図ることで、より実践的な内容を組み込むことができ、ジェネラリストとしての視点を取り入れることができるようになったと思います。そのためにも実習指導者としての研鑽が必要となってくると感じています。

<これから社会福祉士を目指す方々に期待すること>

実習指導をしている中で、実習生からの問いかけでハッと気づかされ、原点に立ち返って考えさせられる場面があります。私自身、日々の慌しさの中で自身の業務を振り返る機会にもなっています。そんな新鮮な視点を持っているこれから社会福祉士を目指す方とともに、未来を見据えた活躍を共にできたらとても嬉しいことだと思います。



東信地区

氏名：宮澤 優里

所属：社会福祉法人みまき福祉会 デイサービスセンターきたみまき

<社会福祉士養成実習の受け入れ状況>

春、夏の実習を当法人のデイサービスセンターを中心に養成校2校から計3人の実習生の受け入れを行いました。デイサービスだけでなく、障害就労支援事業所、ショートステイ、特別養護老人ホーム、地域密着型デイサービスなどにも数日ずつの実習を受け入れていただき、さまざまな福祉施設を実際に目で見て体験していただくことを目的としました。

<実習指導者として心がけていること>

今回実習指導者としてはじめて指導を行いました。改めて自分の知識不足や指導不足な点が多く、至らない点ばかりだったように感じます。実習生には楽しく学び、福祉のイメージを明るく感じてもらいたいという気持ちで、ご利用者様とのコミュニケーションやさまざまな施設での実習から魅力を感じていただけるよう心がけました。

<養成校の新カリキュラムへの対応と課題について>

今回より新カリキュラムへの対応ということで、基本実習プログラムの作成に大変難しさを感じました。また、2か所での実習とのことで、前実習先で学んだこと、当法人で学んだことの共有や学ばなければいけないことをすり合わせするといった時間が必要であると感じました。

<これから社会福祉士を目指す方々に期待すること>

ご利用者様・ご家族様の心配事や悩み、希望に寄り添うことができる社会福祉士を目指していただきたいと思えます。「実現が難しい。これは、できない。」ではなく、「どうしたらできるのか。」を前向きに考えることができる姿勢でいられるように私自身日々心掛けています。



氏名：山田 修

所属：安曇野市社会福祉協議会（安曇野市南部地域包括支援センター）

<社会福祉士養成実習の受け入れ状況>

本年度で実習生の受け入れを開始し3年目を迎えました。当会では、「地域人材の育成」を目的として、将来的に地域で活躍していただけることを期待し、主に市内出身の学生を受け入れています。複数事業所に実習指導者がいるため多様な視点でソーシャルワーク内容を伝達できると思います。新型コロナウイルス感染症の流行時には、当会の新たな取組を実習生に伝えるように心がけていました。

<実習指導者として心がけていること>

実習生との事前打ち合わせに力を入れています。「どんなテーマで実習をしたいのか」を聞くようにしています。その上で社会福祉協議会ならではのソーシャルワーク実践を意識した実習プログラムを作成し、実習中には、実習生に自らの体験の振り返りを促し（内省）、適切な助言等を行う時間を大切にしています。この時間は、実習指導者にとっても良い学びの機会になっています。

<養成校の新カリキュラムへの対応と課題について>

基本実習プログラムは、国の基準に対応するソーシャルワーク実践を実習指導者間で共有しました。しかし、各目標達成に向けたソーシャルワーク実践について、どのような内容で設定すれば実習生にとって良い体験につながるのかを考えることにとっても苦慮しました。課題は、基本実習プログラムの内容を充実させる機会が持てていないことです。他の社会福祉協議会がどんな内容のプログラムを作成しているのか、実習指導者同士で情報交換できる場があれば、是非、参加してみたいと思います。

<これから社会福祉士を目指す方々に期待すること>

社会福祉士を目指す方々は「人生でのきっかけ」があったのではないのでしょうか。私は、社会福祉士の仕事を行う中で、こうした「原点」を大切にしています。それが「人を支援する原動力」になるからです。実習生をはじめ、これから社会福祉士を目指す方々にも自分が社会福祉士になろうと思った初心をいつまでも忘れずにいてほしいと願います。私も社会福祉士の実践力向上のために研鑽していきたいと思っています。



氏名：池上 修

所属：伊那市社会福祉協議会（居宅介護支援センター）

<社会福祉士養成実習の受け入れ状況>

例年1～2人程度の実習生受け入れを行っています。今年度についても2人の実習生の受け入れを行いました。実習指導者も複数名いますので実習生ごとに担当を決めて指導にあたっています。コロナについては5類に移行しましたので、コロナ禍と同様に感染予防には努めながらも通常どおり実習を行っています。実習中にコロナ感染する方もおりましたが療養後に再開をしています。

<実習指導者として心がけていること>

社会福祉協議会で行っているさまざまな事業について実際の現場を経験することで学校では学ぶことのできない現状を知ることができ、その中で課題などを感じてもらえるよう配慮しています。また積極的に地域へ出向いてもらい地域住民の方や関係者とのつながりを持てるようにプログラムを臨機応変に変更しながら対応できるように心がけています。

<養成校の新カリキュラムへの対応と課題について>

実習生ごとに作成する個別実習プログラムの実習内容ごとに「ソーシャルワーク実習教育に含む事項」「達成目標」「具体的実習内容」を記載し新カリキュラムに対応するように心がけています。ただ、全ての内容を網羅できた訳でなく実際に取り組むことが難しい事項も多々あります。限られた時間の中で実際に行うことが物理的にも難しい事項については今後どのようにしていけばよいか検討していく必要があると感じています。

<これから社会福祉士を目指す方々に期待すること>

物事を多面的に捉えられることが大切だと思います。そのためには福祉のことは勿論、それ以外のいろいろなことに興味を持ち知ることが大事だと感じています。毎回実習報告会の中で職員が思いつかないような提言もしてくれています。社会福祉士はこうあるべきだとの形にとらわれることなく柔軟な発想で物事を捉えられる社会福祉士であってほしいと思います。

長野県社会福祉士会 県下4地区の活動状況について

長野県社会福祉士会県下4地区における地区活動や学習会について紹介します。各地区の社会福祉士会員が、地域課題や社会福祉に関するさまざまな領域のテーマで学習会を行っています。今後も、地域福祉向上に貢献し、積極的に支援ネットワークづくりを進めてまいります。

北信地区

本 藤 久 道 (北信地区支部長)

1 今年度の取り組みと今後の予定

北信地区では今年度、会員主体の学びあいとネットワークづくりを基盤に、新たな会員の拡大や社会福祉士を目指す学生との交流など、会の裾野を広げ地区活動の充実を図ります。また、社会的孤立を起因とする複合的な課題の解決や「地域共生社会」の実現を重点テーマとし、学習会等の活動を行う予定としています。

現在までに、地区総会を2024（令和6）年2月17日(土)に長野市ふれあい福祉センターとZoomで開催し、第1回役員会を2023年5月26日に開催し、第2回役員会を2024年1月19日に開催する予定としています。なお、地区総会是对面とオンラインを併用して開催する予定となっています。

地区の学習会では、福祉活動委員会が主催する学習会に共催する形で参画し、多くの会員の方に参加いただけるよう努めています。7月にヤングケアラー実態調査学習会、8月には福祉活動委員会第1回学習会を、今後10月と11月には高齢者プランと障がい者プランについての学習会が企画されています。

これらの開催案内は、社会福祉士会のホームページや広報紙などで周知されますので、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

東信地区

西 澤 茂 洋 (東信地区支部長)

1 今年度の取り組みと今後の予定

コロナ感染症が第5類になったことを受け、なるべく対面での研修などの機会を確保するよう努めています。今年度は、福祉活動委員が全県で企画する各テーマに沿った研修会とは別に地区での学びの機会を作っています。また打ち合わせはオンラインで行い、会員の交流、近況報告など情報交換する機会も作っています。感染症の状況が落ち着いた今、実際に顔を合わせた交流会も行い、社会福祉士会の会員が増えるような活動をしていきたいと考えています。



2 学習会の内容

昨今の社会情勢を鑑み、「これって虐待？」をテーマとし、会員の素朴な疑問や、現場では声に出して言いつらいことを持ち寄ってもらい、グループワークを通じた学習会を行いました。9月は高齢者分野を中心に約30人の社会福祉士が集まり、大いに意見交換をすることができました。10月は地域福祉分野、12月は子ども分野において、同様のテーマでの学習会を企画中です。また学習会の後には会員交流会も予定しますので、ぜひご参加ください。

1 今年度の取り組みと今後の予定

中信地区では、今年度の基本計画でもお示しした会員同士がつながり、顔の見える関係づくりを目標に対面での交流会を実施しています。新型コロナが2類から5類に移行されたこともあり、8月には地区役員を中心に松本駅前交流会（飲み会）を開催。新年度役員の顔合わせ、また、コロナ禍では行うことのできなかった前会長上條さん、前支部長田中さんのお疲れ様会なども含めた会となりました。10月には会員の多くが、福祉、医療の現場で働いているため、交流はしたくとも飲食などは難しいとの意見もあり、「名刺交換会」と題し、対面（一部Zoomも活用）での情報交換や会員同士がつながる場づくりを行いました。

学習会に関しては、福祉活動委員会・他地区との合同開催で、「つながりづらい人」の支援についてや、次年度、長野県高齢者プラン・障害者プランが策定されるにあたり、改正のポイントなどを学ぶ機会を計画、実施しています。

地区単独では、会員同士が学び合うことを目的に、11月25日(土)午後1時30分からZoomで地区の虐待対応委員に講師をお願いして「虐待への対応と防止について考える」を開催します（詳細はホームページ参照）多くの会員の参加をお持ちしています。

1 今年度の取り組みと今後の予定

令和5年度の南信地区では3ブロック（諏訪・上伊那・南信州）の強みを活かした学習会を定期的に行い、学習会や交流会を通して、顔の見える関係づくりの機会を創っております。諏訪ブロックが9月に主催した「我が事・丸ごと」資産形成についての学習会、南信州ブロックも10月に学習会を計画しています。そうした地区活動により、地区や委員会でも会員同士が語り合い、地区内外に血の通ったネットワークが生まれます。社会福祉士の1人として心構えはトランキーロ（焦らない）、1つの「つながり」を大切に組み込んでいきたいです。

2 学習会の内容

《令和5年度南信地区学習会 「伊那市カレー大作戦のその後」～煮込んだカレーはどうなったか～》

『人が人を想うとは』をテーマに、2023年8月19日(土)にカレー大作戦を通じた活動について、パネリストの伊藤氏、岡氏の体験談を交えた学習会を行いました。久しぶりの会場参加とオンラインを併用したハイブリット開催により23人が参加しました。コロナ禍に始まったこの作戦ですが、人の想いがつながることで味わい深い地域づくりとなり、コトコト煮込まれていく熱量を感じました。

噂ではその後の交流会も盛り上がったようです（^^）。



「地元の魅力を再発見できる仕事」

洞 沙緒里（塩尻市社会福祉協議会）

私は現在、主にボランティアセンターの業務をしています。ボランティアセンターでは地域の方の活動の応援や担い手育成、依頼者と希望者をつなぐコーディネート機能などの役割を担っています。今の部署に来て2年目になりますが、自分の地元こんなに素敵な人たちがたくさんいたんだ！と感動の連続です。以前は個別支援を主に行っていましたが、地域のなかにインフォーマルな資源が多くあることを知らずにいました。飽きっぽい性格ですが、さまざまな視点で考え、経験できる社会福祉協議会に就職して飽きずに毎日楽しく仕事ができありがたいなあと思う今日この頃です。

大変なことや辛いことももちろんありますが、やりがいも多い職場です。無理せずリフレッシュしながら、住民の皆さんと一緒にもっと魅力ある地域にしていきたいと思っています。

*次号は、塩尻市社会福祉協議会ふれあいセンター東部 片桐 満智香さんにバトンタッチします。



休日は地元や近隣の気になったカフェに行っておいしいものを食べるのが最近のマイブームです。

信州ぐるっと!! ～県内の特色ある福祉活動を紹介～

『自然と人のぬくもりを感じ里山で働く喜びをともに分かち合う』

中山 弘 美（就労継続支援B型事業所 SATOYAMA FARM DEN+）

就労継続支援B型事業所「SATOYAMA FARM DEN+」は、扉ホールディングス株式会社のグループ企業、株式会社明神館が運営する宿泊施設「Satoyama villa DEN」に隣接する施設として2022年12月に開所いたしました。当事業所の作業所「長屋門」は、江戸時代から残る温かな木のぬくもりと趣があります。北アルプスを一望できる里山の四季の自然を感じながら、利用者さんが日々心温かく健やかにいきいきと明るく暮らす中で、自分らしく生きる力を蓄え、自信を持って自分の望む人生を歩んでいけるようにと、毎日と一緒に積み重ねています。

当施設の主な作業は、空調設備が完備された2棟のハウスで、夏秋いちご（サマーリリカル）と冬春いちご（紅ほっぺ）を栽培し、当社グループの宿泊施設や飲食店でデザートやジャムの材料として活用することです。他に、松本市の姉妹都市ネパールのカトマンズ郡から200kmのラムジュン郡のオーガニックコーヒーを生豆で取り寄せ、市内の自家焙煎専門店で焙煎をさせていただき、利用者さんとコーヒー豆を挽き、フィルターに詰め、パッケージに封入する一連の作業を行っています。利用者さんのお力のおかげで、和やかな雰囲気の中、愉しく仕事をさせていただいており、毎日笑って作業ができることをしあわせに感じています。



今後の展望として、罪を犯した障がいのある方を、一緒に働く仲間としてお迎えし、その方の望む、その方らしい自立した暮らしの実現に向けて、ともに考えていきたいと思っています。

開所して間もない施設ではありますが、「人」を大切にしたい気持ちを持ち続け、利用者の皆さんが輝き、仕事や活動を通して充実した社会生活を送ることができるよう、まごころと感謝をもって取り組んで参りたいと考えております。

お近くにお越しの際にはぜひお立ち寄りください。心よりお待ちしております。

今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ（<https://nacs.w.jp>）をご覧ください。

日時(曜日)	事業名・研修名	会場	備考
11月9日・17日	高齢者虐待対応現任者標準研修	オンライン/県総合教育センター	
11月26日(日)	医療的ケア児・者支援シンポジウム in 東信	長野大学とオンライン	講師：長沼邦明氏
12月15日(金)	累犯障がい者・高齢者の支援を考えるセミナー	オンライン	講師：宮口英樹氏

◎ 入会状況（2023年9月末現在） * 会員数：1,221人 入会率：24.90% 人口10万人あたりの会員数：60.45人

編集後記

私が実習を受けたのはもう何年も前のことになりましたが、私にとって実習先は社会福祉士としての「こころのふるさと」のような存在です。実習の最終日に「頑張れよ!」と言って送り出してくれた言葉は、今も日々の実践でしんどい思いをした時の心の支えになっています。実習で理想とする社会福祉士の先輩に出会えたことも私にとって実習の宝物となりました。改めて実習の意義や役割について考えを深める機会となりました。

(A.N)